

平成27年度 学校評価報告書

神戸市立本多聞中学校  
校長：福本 靖

項	重点目標(取組)	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価でいただいた意見等
一人一人の自立に向けた力を伸ばす	きめ細やかな指導、個に応じた指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学ぶ力・生きる力向上支援員」の活用や時間割の工夫によって、特に英・数の授業で可能な限り複数指導の形態を目指した。ただ昨年度同様の組織的・継続的な課題は残っており、改善が必要である。</li> <li>「みんなの学習クラブ」の家庭配信をスタートさせ、より個に応じた指導の充実に努めた。保護者や生徒からのアンケートやテスト結果から想像以上の具体的な成果が見られた。今後、様々な工夫によってさらなる成果が期待できる。</li> <li>放課後や長期休業中の補充学習「ボン太モン教室」に関し、形態を工夫することで、飛躍的に開室時間を増やした。今後は活用する側の生徒への指導やさらなるボランティアの確保が重要である。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>来年度は「学ぶ力・生きる力向上支援員」を計画的・積極的に活用し、英・数を中心とした習熟度別クラスを編成し、よりきめ細かな個に応じた指導を行う。</li> <li>昨年7月に開始した「みんなの学習クラブ」の家庭配信は大きな成果を上げているので、宿題との連動など新たな手法でさらなる成果を目指す。</li> <li>補充学習「ボン太モン教室」をさらに充実させるために現在中心となっている学生スクールサポーターだけでなく教員OBなどにも広くボランティアを募り質の高いものを目指す。</li> <li>家庭配信のシステムを利用し、家庭学習を具体的に支援することで、拡大する学力差を少しでも補うことができるように取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>放課後や長期休業中にC P教室を開放してボン太モン教室を実施していることは、生徒の学力向上に大きく貢献している。ぜひ、継続し、拡大してほしい。</li> <li>ボン太モン教室は、家庭環境に関わらず平等に学ぶ機会を保障するという点で素晴らしい取組である。利用させたい生徒の活用が限定的な部分もあり、さらに工夫してほしい。</li> <li>家庭配信をどこよりも先んじて実現し、生徒の学力向上に取り組んだことは大いに評価できる。学校がこのような積極的な姿勢を見せることでさらに信頼が深まる。</li> <li>家庭配信は、それまで学校や塾に任せきりだった学習を保護者が意識するいい機会にもなっている。</li> <li>家庭配信は生徒の自主性を養う絶好のシステムであるが支援をしなければ、活用が広がらないので、授業や課題としての連動をもっと考えて欲しい。</li> <li>生徒にとって、本当に楽しい学校は、行事も大切だが何より先生方がじっくりと話を聞いてくれる環境が整っていることなので、できるだけ時間をかけて向き合うような指導を大切にしてほしい。</li> <li>コミュニケーション能力に着目することはとても大切だと思う。最近の子どもたちは、言葉の選び方一つでいじめ問題にもつながりかねない。</li> <li>学級が減り、教員数も増えない中で、生徒や保護者のニーズを優先し美術部の創設が決まったことはすばらしい。喜んでいる生徒が多い。</li> <li>教育相談をしっかりと位置付けて、貴重な場としている風潮を今後も継続してほしい。「何かある？」先生から声をかけてもらうだけで大きく違う。</li> </ul>
	確かな学力の育成と分かる授業推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度開始した補充教室「ボン太モン教室」をP T Aやボランティアの協力を得て長期休業中や懇談会の待ち時間等にも拡大した。授業との連動や担任の指導との結びつきなどまだまだ改善する余地がある。</li> <li>授業評価アンケートを実施し、分かる授業に向けて各教科担任が生徒の視点を中心に改善に取り組んだ。全体的には昨年度より数字が改善されているが、個々には課題が残っている。</li> <li>家庭配信の開始にともない、それを前提とした授業その他の学力向上の取組をスタートさせた。内容的にはまだまだこれからである。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>本年度、家庭配信の中間検証のために実施したテストやアンケート等のシステムをさらに充実させ、生徒の学力分析に活用し「分かる授業」を推進する。</li> <li>授業アンケートに基づいて、全教師が改善計画書をまとめたり、互いにアドバイスできる研修を実施し、課題の解消に努める。</li> <li>全国学力学習状況調査や神戸市学力定着度調査の結果をさらに活用し、より具体的な取組を展開する。</li> <li>学力向上に関して、保護者（家庭）への協力要請を強化し、その意識向上にも取り組む。</li> </ul>	
	楽しい学校づくり いじめのない学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年から引き続き、「コミュニケーション能力養成講座」を実施し学級・学年・学校全体の親睦を図った。その影響でそれぞれの学年行事にお笑いを取り入れられるなどの成果が見られた。</li> <li>各行事にできるだけ生徒の主体的な活動を取り入れ、達成感や充実感を得ることができるよう工夫した。リーダーが声を出す場面が増え、集団としてしっかり成長している。もっと前面に出す必要がある。</li> <li>教育相談やアンケートを通じて、生徒の実態の把握に努め、特にいじめやラインの問題について力をいれた。100%の成果までは当然難しいが、昨年に引き続き、この取組は大きな成果をあげている。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>来年度も引き続き「コミュニケーション能力養成講座」を実施する。今年度実験的に取り組んだ学校保健委員会とのコラボなど新たな取組も工夫したい。</li> <li>生徒会が発案・実行する新たな取組や行事をさらに増やし活性化を図る。</li> <li>学級数が減り、教員数も減るが多様な生徒の活動を支援し、より充実した学校生活のために4月より正式に美術部を発足させる。</li> <li>いじめ等に対しては来年度も引き続き、教育相談やアンケートを充実させ、生徒の実態の把握に努め、防止並びに迅速な対応に努力する。</li> </ul>	
実教職員を員磨き・学校高める魅力と	校内研修の充実 教員の指導力向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒一人一人を大切にしている指導について、その意識やノウハウを研修する機会を増やし信頼関係の構築に取り組んだ。その結果、全体的には保護者からの批判的な訴えは大きく減少した。しかし、個々には課題は残っている。</li> <li>P T A組織の活用、特に学年委員会や運営委員会での指導に関する指摘をタイムリーに拾い上げ、教員にフィードバックすることで指導力向上に取り組んだ。具体的でわかりやすいので教員にも受け入れられている。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修のための研修にならないように留意する。そのために、テーマや目的をできるだけ身近で簡素なものとし、特に生徒の利益に直結するプロセスを明確にすることでモチベーションを高める。</li> <li>定期的開催されるP T A運営委員会や学年委員会での意見や提案を基に各教員がそれぞれの教育活動を振り替えるようなシステムを確立し、指導力の向上に努力する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本多聞は学校と保護者ががっちりタッグを組んで子どもたちのために様々なことにチャレンジしている様子がよく伝わってくる。</li> <li>公立中学校なので、様々な先生方がおられ、指導力にも大きな違いがある。教員間で風通しを良くしてチームとして結果を求めてほしい。</li> <li>授業アンケートを初め、各アンケートや調査を通じて生徒や保護者のために頑張ろうとする姿勢は評価される。自分の子どもを通わせたい学校であってほしい。</li> <li>生徒たちから信頼される先生について、その理由を先生方が、特に若い先生方がじっくり考えることができる研修を充実させてほしい。</li> <li>P T Aの指摘や提案を取り上げてくれる体制が整っており、P T A学級委員もやる気になったり、一般の保護者もアンケート等に真摯に向き合うようになっている。この好循環を大切にしてほしい。</li> <li>現状ではミマモルメが大きな役割を果たしている。特に大切なことが発信されてくるので、保護者もその認識は確立している。ただ、学校HPも含め、保護者はさらなる情報を求めているので、もっと量的に増やしてほしい。</li> </ul>
	評価活動に基づくPDCAの確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>各評価アンケートを確実に実施し、それぞれ効果の期待できるタイミングで職員の研修を行った。7月の授業評価は2学期以降に、10月末の保護者による授業評価は、文化祭以後に、12月の全体的な学校評価等は3学期に反映させるように同年度内での振り返りがPDCAの原動力となっている。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、「授業評価アンケート」「学校評価アンケート」をベースに、P T A運営委員会、学年委員会での討議や教員の研修等をうまく組み合わせることでしっかりとPDCAを確立する。</li> <li>神戸市で最もさかんな評価活動を来年度も維持する。</li> </ul>	
	情報発信の充実 学校HPやメールの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年に引き続き、学校ホームページや学校メール「ミマモルメ」を活用し、必要な情報をタイムリーに発信し、効果的な情報発信ができた。保護者からも好評価を得ている。担当の広がりや組織的な情報収集体制が必要である。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、学校ホームページや学校配信メール「ミマモルメ」の活用によって必要な情報をタイムリーに発信する。</li> <li>より多くの教員が関わるように操作に関する研修会を実施する。</li> </ul>	
特色ある神戸の教育を更に発展させる	人間関係力、コミュニケーション能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>主に総合的学習の時間を活用したキャリア教育等や各行事を通して、集団性や仲間意識を高める取組を展開し、良好な人間関係の構築に取り組んだ。校内でのトラブルは大きく減少している。</li> <li>「コミュニケーション能力養成講座」を継続実施し、保健員会とのコラボをするなどその拡充に取り組んだ。雰囲気づくりには大きく貢献している。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内でのトラブルは大きく減少しており、今年度実施した様々な取組が成果をあげているので、来年度もマンネリ化に注意し、新たなエッセンスも加えながら継続する。</li> <li>象徴的な行事や取組だけに頼らず、日頃の教育活動の中でも良好な人間関係の構築を意識した指導を工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合の時間の取組について、様々なことが実施されているが特に若い先生方によってそれぞれの目的や趣旨を理解してもらい、効果的な指導に役立てて欲しい。</li> <li>学校が目指しているように、生きて行く上でコミュニケーション能力はとても大切である。その手段や方法を学ぶとともに、インプットの量を増やすために様々な場面でいろいろなお話を吸収してほしい。</li> <li>すでに取組が始まっているようであるが、4月から配置される図書館司書には頑張ってもらい、図書室が、「憩いの場」として活用されることを期待したい</li> <li>ボン太モン教室のようにP C教室が各自で静かに学ぶ場とすれば、図書館は調べたり、時には教えてもらったり、議論したりできる場にしてはどうか。</li> </ul>
	学校図書館の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書室改革は長年の懸案であったが、ようやく定期的に専門のコーディネーターに入ってもらい図書室の改造に着手した。蔵書の整理や大幅なレイアウトの変更に取り組んでいる。</li> <li>P T Aが協力して昼休みの開室を増やし、図書室の活用を促進した。生徒の来室数も増えている。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度後半に取り組んでいる図書室の大改造を来年度中には完成させる。具体的にはレイアウトの変更、新たな書架の設置、床の上履き化等である。</li> <li>上記ハード面での改造に加え、ソフト面でもP T Aの協力も得ながら、多くの生徒が集うことのできるサロン化を目指す。</li> </ul>	
市民が自ら学び子供の育ちを共に支える	家庭や地域との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>HPやメール（ミマモルメ）の活用が家庭とのタイムリーな情報伝達の中心手段として定着した。</li> <li>P T A改革2年目で少しずつではあるが、組織が当初の目的に沿って機能し、様々な面で家庭と学校間の連携は強化されている。</li> <li>地域行事における中学生の積極的な参加・活躍が定着しつつある。年々、必要とされる存在になっている。さらに内容を工夫し有意義なものにすることが大切である。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>HPや学校メールをさらに充実させ活用拡大を図るとともにそれらの情報が生かされ、少しでも家庭が必要とするような工夫を行う。</li> <li>大きく改革してきたP T A組織を活用し、家庭との連携を強化する。</li> <li>引き続き、地域行事への中学生ボランティアの参加を促進し、必要とされる関係を目指す。来年度は行事の時だけでなく、普段の生活の中で役立つようなボランティアにも取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>P T A改革の目玉でもあるが、運営委員会が大きく変わり、学校運営に関することをしっかりと議論し、役立てていることが活性化に繋がっている。</li> <li>保護者の声ダイレクトに届いたり、逆に学校が何を考えているのかが定期的に知らされる機会はなかなか簡単なようで難しい。この点で本多聞の取組は素晴らしい。</li> <li>多くの学校では、教員への不満があってもなかなか伝えることが難しく、事態が深刻化してから、お互いに気まぐれい思いになる。しかし、本多聞は建設的な意見交換として位置づけられ、P T Aに興味のない保護者も参加しやすい。</li> <li>地域に愛され、役に立つ中学生としてすばらしい活躍をしてくれている。さらにお祭り等の目だった活動だけでなく、さりげないところでも活躍できるように頑張ってもらいたい。</li> <li>地域関係者としては、中学生のような若い力が地域にとって不可欠なものになっているので今後ともその活躍を大いに期待したい。</li> </ul>
	P T A活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>改革2年目、活動の停滞、マンネリ化、学級委員の選出の不調等への対応として、成果は確実に上がってきている。これらの動きを推進したメンバーの入れ替わり後も引きついでいくことが課題である。</li> <li>月に1度の運営委員会が実質的なP T A学級委員総会となり、多くの提案や討議がなされ、具体的な形で学校運営に反映することができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>来年度はP T A改革3年目となり、内容や成果がようやく実感できるようになった反面、推進してきたメンバーの交代があるので、しっかりと引き継げるように確認や整理を行う。</li> <li>月に1回（第2火曜日）のP T A運営委員会が実質的な委員総会となり、学校運営に関する諮問機関の役割を果たしつつあるので、その立場を明確なものとし、機能させていく。</li> </ul>	